

富川市、感情労働者向け治癒と回復支援、 イルスィム支援センター開所へ

富川市は今年4月28日、ボクサゴル文化センターの6階で感情労働者のための富川市イルスィム支援センターの開所式を開催した。 イルスィム支援センターで主催・主管した今回の開所式には、富川市長権限代行のソン・イムソン副市長、富川市議会のカン・ビョンイル議長を始めとする道議員、市議員、関係機関長など、約50人が参加した。

富川市イルスィム支援センター(センター長：キム・スジョン)は、944平方メートル規模で、感情労働者の▲心の問題解決支援のための「治癒空間(相談室、非対面相談室)」▲体の回復と癒しのための「回復空間(ウェルビーイングルーム、ヒーリングルーム)」▲休憩とリフレッシュのための「休憩空間(休憩室)」▲健康増進と能力強化のための「プログラム空間(多目的室、プログラム室)」▲疎通と参加、認識改善のための「つなぎ空間(ロビー、自助グループ部屋)」▲センターの運営を支援する「運営支援室」で造成されている。



富川市イルスィム支援センターの受託機関である富川女性青少年財団理事長(チョン・ソンミン)は、「全国で初めて設立された富川市イルスィム支援センターが感情労働者の治癒と回復のための良いモデルとして発展できるよう、財団が積極的に支援していく」として、「そのためには、地域社会の積極的なコミュニケーションと協力が欠かせない」と伝えた。

富川市長権限代行のソン・イムソン副市長は、「感情労働者に対する身体的・精神的な治癒と回復により、感情労働者の健康な暮らしを支援すると共に、認識改善を通じて感情労働が尊重される文化作り貢献していきたい。多くの方々のご関心とご参加をお願いしたい」と述べた。

富川市イルスイム支援センターの関係者は、「開所式で行われた心の結び目解き」行事は、地域社会と一緒に感情労働者の心の結び目を解いて健康な日常を取り戻せるようにするという象徴的な意味がある」と話した。

一方、イルスイム支援センターは、安定的な運営に向けた基盤構築のため、ベンチマーク、需要調査、地域ネットワークの構築、モデル事業の実施などの準備段階を経て、常時運営される予定である。